１．個人データ

職名：准教授　　氏名：山本長紀　　学位：修士（教育学）e-mail：takenori@kobe-kosen.ac.jp

２．教育・研究テーマ

（１）高専における Task-based Language Teaching を用いた語彙指導

語彙指導では，継続的で語彙の定着につながる効果的な学習を促進することが課題となっている。研究者はこの課題を解決するため実践研究を行い成果を得たが（瀬川・山本, 2015, 2016; 瀬川・山本・岩崎, 2016），指導法における改善点も明らかにした。そこで前述の実践研究で十分に行われなかったタスクを用いた語彙指導に着目し，タスクベースの語彙指導法を精査し，タスクベースカリキュラムを作成する。

高専における語彙指導について瀬川(2015)は，学習者の語彙学習が小テストや試験対策のためだけの一過性の学習となっており，語彙の定着に繋がっていないと，問題を指摘している。つまり学習者の語彙学習が一時的なものに留まらず，継続的で語彙の定着に繋がる効果的な学習を促進することが喫緊の課題となっている。

研究者は「継続的で語彙の定着に繋がる効果的な学習を促進すること」を目標とし，１）Nation (2001), Bloom and Shuell (1981)が明らかにした語彙定着のための繰り返し学習の重要性と，２）Paribakht and Wesche (1997)が明らかにした複数タスクを用いた学習の語彙定着効果を参考に，これまでの語彙指導を変更した。学習者の語彙学習方法と語彙学習に対する意識についてアンケート調査を行い，自由記述回答を計量テキスト分析により分析し，新しい指導を通した語彙学習の変容を探った。その結果，学習者は一過性の学習から脱却しつつあり継続的な学習に向けて学習を改善していることが明らかとなった。

上述の実践研究の継続研究として，「繰り返し学習」と「複数タスク学習」を取り入れた語彙指導の語彙定着に対する効果を計量的に検証するため，平成 28 年度に新たな実践研究（瀬川・山本・岩崎, 2016）を行った。当実践研究では，繰り返し学習と複数タスク学習を取り入れた語彙指導は，従来の語彙指導より語彙学習に効果的であることが明らかとなったものの，語彙定着のための指導法に改善の余地があることも明らかとなった。特に「複数タスク学習」においてタスクを用いた直接的な語彙指導を行なっていない。この点において指導法の改善が可能であると考えられ，語彙定着に対しより効果的な語彙指導法の確立のため，タスクベースの語彙指導を精査し，その効果を検証し，タスクを系統的に整理したカリキュラムの開発を目指し研究を行っている。

３．その他のデータ

（１）教育・研究技術相談可能分野

・語彙学習や Task-based Language Teaching を用いた教材コンテンツ
・
・
・

（２）出前講義・公開講座，講演可能テーマ

・英語学習
・
・

（３）キーワード

・英語学習